

# 平成23年度第2回埼玉県廃棄物処理施設専門委員会

## 次 第

日時：平成23年8月23日（火）

14:00～16:00

場所：埼玉会館3C会議室（3階）

1 開 会

2 議 題

（1）廃棄物処理施設変更許可申請について

（2）その他

3 閉 会

### 【資料】

廃棄物処理施設変更許可申請書及び生活環境影響調査書

### 【配付資料】

資料1 平成23年度第1回埼玉県廃棄物処理施設専門委員会 議事要旨

資料2 第1回委員会の質問に対する回答

## 第1回委員会の質問に対する回答

### 1 焼却灰に含まれる放射性物質についての県の対応

今回の原子力発電所の事故により県内でも比較的濃度の高い放射性物質を含む廃棄物が発生している。

放射性物質については廃棄物処理法適用外であるが、県としては、国の取扱方針（「放射性物質が検出された上下水処理等副次産物の当面の取扱いに関する考え方」（平成23年6月16日原子力災害対策本部）及び、「一般廃棄物焼却施設における焼却灰の測定及び当面の取扱いについて」（平成23年6月28日環境省））に従い対応している。

### 2 南側えん堤の安定計算について、地下水をどのように考慮しているのか

次の理由によりえん堤への水の流入を抑制することで、えん堤内の地下水位は上昇しないため、安定計算に影響しない。

- 上流側は遮水シートを敷設するため、埋立地からの浸出水の浸透はない。
- 底面は岩及び地盤改良で地下水の浸透が少ない。
- 上部は簡易舗装等により降雨は表面排水される。
- 東側の造成盛土には、別紙1のとおり沢部底部に暗渠管（有孔管）を設置し地下水を防災調節池へ放流する。

### 3 漏水検知システムの精度と遮水シートの修復の仕方について

(検知方式：物理式と電気式)

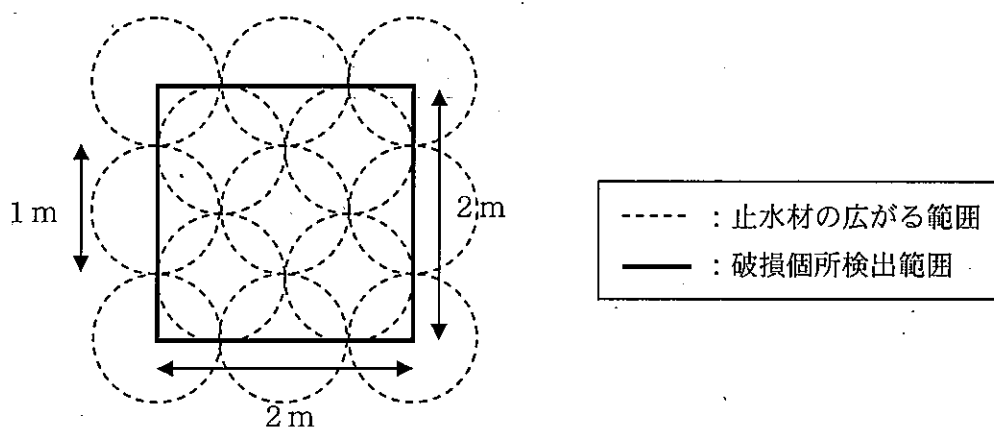
- 今まで整備してきた処分場に、電気式検知システムの配線を付加するだけであり、これまでの経験を活かした適切な現場管理ができるため、電気式を採用する。

(電極方式：点電極方式と線電極方式)

- より精度の高い点電極方式の導入を計画している。

(修復方法)

- 応急対策：損傷位置付近にボーリング等を行い止水剤を注入する。
- 恒久対策：損傷位置上部を掘削し、熱溶着等によるパッチングを行う。



(応急対策参考図)

#### 4 地下水集排水管と地下水の流向について

(地下水の流向)

- 申請書添付資料「周辺の地形等の状況」にある地下水流向は、観測地点での主な流れから全体を想定している。
- 深度毎で流向が異なるため、流速の早いものから推定しており、集水ピット下部の地下水流向は、GLより10m以上地下のものである。

(遮水シート下部の地下水)

- 遮水シートの基盤は基本的に岩盤であり、亀裂は確認されているが岩の透水係数は $10^{-4}$ cm/s以下であるため、通常時の地下水量は岩から染み出す程度と想定している。
- 埋立地内の沢筋に集まる水を排除するため別紙2、別紙3のとおり沢の下部に排水施設を設置する。

#### 5 沢部の地盤改良に伴い汚泥が発生するのか

- 地盤改良の施工前に、計画地に繁殖しているアシ等の植物や落ち葉を除去する。
- すき取りを行い事業地外に搬出した土砂は場内で保管し覆土材等に使用する。
- 地盤改良は地中にセメントスラリーを噴射しながらトレンチャーで攪拌するため、土砂は全て改良土となり汚泥は発生しない。